

交通政策審議会観光分科会 第45回 議事概要

1. 日時
令和5年2月9日（木）10時30分～12時10分
2. 場所
中央合同庁舎第2号館12階 特別会議室
3. 出席者
奥委員、恩藏委員、加藤委員、黒谷委員、篠原委員、住野委員、伊達委員、田中委員、野田委員、原田委員、萬年委員、屋井委員、矢ヶ崎委員、山内委員
観光庁
4. 議題
「観光立国推進基本計画」の改定について
5. 議事概要
観光庁より議題について、資料に沿って説明。その後、委員による意見交換を実施。
主な意見は以下のとおり。

-
- 委員からの主な意見
 - ✓ 「高付加価値旅行者」の定義が文中にあるが、より高い価値を提供して適正な価格を払ってもらおうという「高付加価値化」もあり、それらの定義を最初に明確にした方がわかりやすいのではないか。
 - ✓ インバウンド目標を2025年にコロナ前と同水準とすることで、オーバーツーリズムを懸念する人もいると思われる。持続可能な地域づくりに加え、インバウンドの地方誘客、国内需要の平準化もオーバーツーリズム対策であり、それらに取り組みながら回復を目指す、と言えよのではないか。
 - ✓ 観光DXについて、システム導入がある程度進んでいる地域でも、さらに高度化を図る必要があるところもあるのではないか。
 - ✓ 非常によくまとめられている印象。
 - ✓ 消費分野では、ECの普及、配膳などのサービスロボットの導入、生鮮食品の価格についてのAIカメラを活用したダイナミックな変更の試みなどの動きがある。観光DXについては、そうした先行する動きを観光に置き換えたらどうなるかをイメージしながら、国際競争力のある観光をDXの面で推進して欲しい。

- ✓ 地方誘客の促進について、例えば北海道の余市は、世界的なワイナリーやウイスキー蒸留所があるが、レストランやホテルはあまりない。インバウンドの地方誘客には、美食レストラン等、観光施設プラスアルファの要素が必要であり、特定の町だけでそれを実現できないような場合、エリアとしての連携を国としてどのように支援するのか意識しながら進めてほしい。
- ✓ インバウンド受入環境整備では大都市と地方を結ぶ交通が重要であり、羽田からの地方航空路線でロードファクターが低いものに積極的にインバウンドを入れていくことは、航空事業の面からも大事。万博を控えた関西も含め、基幹空港からの路線を特に重視してほしい。
- ✓ 航空路線での地方誘客に当たっては、首都圏からの送客だけではなく、地域の引く力も重要。地方空港では、職員が土木系だけで観光の視点が欠けることもあり、施策の実効性を高めるためには、自治体内での観光部門と観光以外の部門との連携強化が重要。
- ✓ 先日参加したフォーラムイベントでは、観光を核とした地域の連携や活性化に関し、自治体関係者や観光事業者から、地域間連携やブランドの創出に当たって、間を取り持つ人がいない、という問題提起があった。そうした問題点の解決が早期に図られるとよい。
- ✓ この計画で、日本の隅々まで観光の恩恵が行き渡るとよい。自分としてもメディアでの活動を通じ、観光に行きたいという気持ちの醸成や地域の魅力発信に貢献していきたい。
- ✓ アウトバウンドとインバウンドの相乗効果について、もう少し強調すべき。また、JNTOについて、海外事務所もあるのだから、アウトバウンドにもっと活用すべき。
- ✓ IRは、もともと観光の起爆剤というイメージだったが、最近はパワーダウンしているような気がする。各自治体からの申請状況と今後の見通しについて教えてほしい。
- ✓ 今後の方向性として「持続可能な観光地域づくり」が上位に来て、わかりやすくなった。概要資料にある「宿の改修」は細かい話で、重要なのは事業基盤や観光基盤。
- ✓ 持続可能な観光（観光SDGs）の資料にも、「好循環の仕組みをつくる」ことをキーワードとして明確に記載すべき。
- ✓ 観光DXの推進の資料に先立ち、事業基盤がどのように毀損され、今後どのようにしていかなければならないかに関する資料があるとわかりやすいのではないか。
- ✓ 中小企業・小規模事業者向けの再生支援、資金繰り支援に関する記載について、財務に毀損が生じたのは中小企業だけではないので、観光事業者全体の財政基盤の体制強化として記載すべきではないか。
- ✓ 宿泊施設の整備促進の記載に関し、ホテル・旅館だけではなく、周辺産業のソフト・ハードの高付加価値化支援も必要であり、観光周辺産業の強化についての記載を検討すべきではないか。

- ✓ 2025 年の先まで考え、宿泊施設のリノベーションだけではなく新規ホテルの整備促進についても記載すべきではないか。
- ✓ 地域でのインバウンドの受け皿となるランドオペレーターが足りていない。ランドオペレーターの育成について記載したほうがよいのではないか。
- ✓ 外国人材の活用について、とにかく人手が足りていない中で、なぜ活用できていないのかは重要なテーマであり、もう少し明確に書くべき。「観光人材の育成・確保」の記述も、大学、専修学校、外国人材、DXによるサポート、の順番とすべき。
- ✓ 関係者の役割分担について、2025 年までの計画では難しいところもあるが、もう少し中長期的な視点のキーワードの記載があってもよいのではないか。例えば、世界の観光で成功している地域には別荘があるところが多いが、分譲やホテルコンドミニアムのような新しい事業をもっと展開させるべきかといったことも、中長期的視点からはテーマとなり得る。
- ✓ 全体として観光を持続可能な成長のエンジンにするという力強いメッセージが出力されており、とてもよい。
- ✓ 「持続可能な観光地域づくり」について、取り組む地域数 100 地域を目標とし、象徴的事例を作っていくことに期待をする。インバウンド数や消費額増加の成果、これまでにない新たな取組、サステナブルに関する発信の仕方等について事例を検証していくことは、2025 年以降における施策の道筋にもつながるのではないか。
- ✓ 関係者の役割分担に関し、魅力的なコンテンツを持っている地域と、東京や大阪の観光 DX ベンチャー等がつながって地方誘客の成果が出ているという事例もある。地域で個々につながるだけではなく、全国レベルで様々なアイデアを有機的に組み合わせたい、というメッセージが伝わるとよい。
- ✓ 観光人材について、育成・確保に加え、現在従事している方やコロナ禍で離職してしまった方に対しても、今後働き方改革によって観光分野において付加価値を生む旬な人材となれる、といったメッセージを出せると関心が高まる。
- ✓ インバウンドの取組について、アドベンチャーやアート等が単発で書かれているが、顧客分析の実施や具体的な事例について追記するなどして、地域の特色を生かしたいろいろな〇〇ツーリズムの創出が地域の可能性を引き出す、ということが打ち出せることは有効である。
- ✓ 大変意欲的な内容で、持続可能な観光の定義が明確になった点もよい。
- ✓ 「持続可能な観光地域づくり」の KPI がロゴマーク取得 100 地域となっているが、地域は表彰や予算を取るためだけに頑張るということもある。ロゴマークを取得するためだけといった矮小化された取組ではなく、好循環を目指す地域の頑張りを促進することとなるよう、留意が必要。
- ✓ 各地域は、自分たちならではのコンテンツといった「What」についてはそれぞれの特色を出すべきだが、夜の食事場所が少ないといった課題に対しどう進めたらよい

かという「How」は共通する。地域が取組を早く進められるよう、国はノウハウや知識の部分で地域の取組を後押しすることが必要。デジタル田園都市国家構想でも、この観点から、横展開を強調している。

- ✓ 国内旅行需要の平準化について、我が国の休暇取得率は改善傾向だが、バカンスの意識はなく、一斉に休むことが習慣として根付いている。平日旅行需要喚起キャンペーン等の実施に当たっては、厚生労働省等の関係省庁との連携が重要。
- ✓ コロナによる観光産業の経営への影響は甚大で、回復には相当の期間を要する。観光産業の人材確保に当たっては、事業者の取組だけではなく、国として産業を支えていくという意思を労働市場に発信することが必要。また、賃金改善の要請だけではなく、検証も必要。
- ✓ 高付加価値化について、付加価値を高める施策を事業者や地域が取り組めるよう発信、展開していくとともに、DXを省力化だけでなくサービスの高付加価値化にも活用されるよう推進していくべき。また、働く者への還元により産業として正のスパイラルを生み出していけるよう、事業者が意識改革できるような発信が必要。
- ✓ 消費拡大や観光の持続可能性の観点では、地方誘致のみならず都市観光も重要。
- ✓ MICE については、国際会議やイベントだけでなくインセンティブ旅行も戦略的に進めていくべき。
- ✓ ここまでわかりやすく具体的な計画というのは初めてではないか。
- ✓ 若年層、シニア層などの定義は時代によっても変わるので、明確にしておいたほうがよい。また、「稼げる地域・稼げる産業」についても、今後、国としての基準を考えてもよいのではないか。
- ✓ 訪日外国人旅行消費額5兆円は厳しい目標で、ビザ緩和がなければ達成できないと思う。ビザの戦略的緩和をもっと強調するほうがよい。
- ✓ 100 個以上ある施策について、もう少し強弱をつけて記載できるとよい。例えば、サイクルツーリズムはアドベンチャーツーリズムとまとめてもよいのではないか。
- ✓ 最近、アジア各国において福島の ALPS 処理水が話題になっており、日本への旅行を計画する外国人からの問合せが増えている。風評被害対策について、計画中に記載はあるが、事実と国としてのメッセージをもっと発信すべき。
- ✓ 全体としてよくまとまっている。サステナブル重視の観点が入っており、方針や目標もクリアでよいと思う。
- ✓ インバウンドにフォーカスしすぎていて、アウトバウンドの要素が少ないので、記載バランスの調整が必要ではないか。
- ✓ 多様な関係者の役割分担について、2023 年から 2025 年にかけて誰が何をやるかが明確化されたタイムフレームがあるとわかりやすい。
- ✓ 高付加価値旅行者の誘致について、例えば、フランスやアメリカの富裕層は長期滞在をするが、何もせずに家族とただ過ごす Well-being ツーリズムが人気。外資系

ホテルだけでなく、地方でのんびりと長期滞在できるラグジュアリーな宿泊施設を展開できるとよい。誰がいつどこに来てどのような滞在をすると地方にお金が落ち、リピーターになるのか、ビジュアル化できるとよい。

- ✓ 持続可能について、ロゴマーク取得を求めるだけではなく、好循環を生み出すための国の後押しが必要。ツーリズムのアワードを作ることなどで、持続可能な取組についての健全な競争を全国で展開させ、好事例を創出するのがよいのではないか。
- ✓ 「持続可能な地域づくり」の目標については、ミスリードされないよう、サブ的な目標もあってよいのではないか。また、景観計画、無電柱化計画など様々な関係計画があり、地域のそうした取組も参考に見るとよいのではないか。
- ✓ 観光危機管理計画について、これがあれば外国人がリアムタイムで避難できるかといえば若干疑問だが、計画策定自体は重要。観光危機管理計画上の役割について記載を充実するとともに、策定数を関連指標にするなどしてもよいのではないか。
- ✓ サイクルツーリズムは、走行環境など、インバウンド旅行者の安全配慮に課題がある場合もある。走行環境整備に加え、道路管理者と観光関係者が連携して、旅行者のレベルに合わせた安全に関する情報提供ができるとよい。
- ✓ 「持続可能な観光地域づくり」を進めていくというのは社会に大きなインパクトを持つ。観光という基幹産業で地域をつくっていくということで、非常によい。
- ✓ 観光産業の収益力が向上し、労働面をはじめ地域に還元されることが重要である。収入を上げることでよい人材が集まり、産業が高度化して好循環が生まれる、といったメッセージをもう少し強調してもよい。
- ✓ DMOの法的な位置付けについて、将来的に見直すべき。DMOは形態によって権限や自由度が大きく異なるが、「司令塔」の役割を発揮できるよう、独立性やそこで働く人の地位向上が必要であり、また、もう少し権限を持たせるべき。例えば、DMOに二次交通を含んだ地域計画を立てさせ支援する、といった考え方があってもよい。
- ✓ インバウンドの国内移動について、レンタカーでのETC利用が難しいという話があるようであり、改善したほうがよい。
- ✓ 最近、大学でデータサイエンス学部ができているが、DX人材の確保、活用に当たっては、観光分野が魅力的に映らないと、人材は集まらない。
- ✓ JNTOについては、観光庁で戦略を立ててうまく使うことが重要。観光庁で細かい戦略まで立てることが難しければ、DMOと連携した戦略策定・実施が必要ではないか。
- ✓ 各委員とも、基本的によくできているが、いくつか改善すべきところや強弱を付けるべきところはある、という認識。
- ✓ 委員から出た意見等を踏まえてブラッシュアップした上で、次回の分科会に基本計画案を提示してほしい。

(欠席委員より)

- ✓ 目標について、「客数」よりも「客単価」を重視することが明確になり、国による外国人富裕層の訪日消費へのアプローチ等の具体的な施策の実現が期待できる。
- ✓ 「ショッピングツーリズム」という言葉がこのような文書に記載されたのは、今回が初めてではないか。国の推進項目にショッピングが示されたことで、いろいろな業界からの積極的な販促活動や要望につながる可能性があると思う。
- ✓ 「Visit Japan Web」について、本年4月から訪日客が免税店での消費税免税を短時間で行える仕組みが実装される。訪日客は日本での買物を楽しみにしている一方、それに時間をかけることへの不満解消が大きな課題となっており、このサービス内で、きめ細かな情報発信や行動分析等が行われるとよい。
- ✓ 中国のビザ緩和が実現すれば、更なる訪日が見込まれる。出入国審査の効率化等は、訪日客から大いに歓迎されると思う。
- ✓ 国内交流の拡大について、「第2のふるさとづくり(継続した来訪の促進)」よりも、「需要の平準化(による生産性の向上)」の方が重要で、日本の観光産業が中長期的に取り組んでいくべき大きな課題なのではないか。

以上